

心耕

こころう

大相撲九州場所の夢を見た。二日目柔道の一番が終り、こころうと書かれたという所を目が覚めた。

今月の行事

十二日(土) 築地本願寺報因心講参拝

西光寺 午前八時出発 午後七時帰

二十五・二十六・二十七日(金)

西光寺報因心講

御講師 高津里信師(高根町大田市浄福寺)

十一日(金) 午後二時より 主に女性
十六日(土) 午後六時より 主に男性

二日(土) 午後六時より 今年最後の日

十三日(日) 午前八時より 境内地草刈り 約一時間
今年最後の日

二十二日(火) 午前十時より 仏壇のお磨き 約一時間

報因心講を綺麗にするは縁で迎えます。

御晨朝(お朝ご) 毎朝六時半 いろいろお参りをお願いします。

ハッとする程に美しい夕焼けがある。今の時期に多い。その夕焼けに生念うと郷里の祖母との一瞬を思い出す。

また五・六才の頃、祖母と一緒に小さな畑にいた。夕方、傍にいた祖母が、「円秀、見てみる、綺麗な夕焼けじゃろー。学校帰っちゃ人はな、今夜そこにお

るとばい。手を合わせか、ナンマ

ナンマがブー...

凡そ六十年前の十一月二十四

日、中学で英語を教えていた私

の叔父が白血病で二十七才で往

た。その丁度一年経った頃のこと

とだったと記憶。

夕焼け向か、手を合わせ、先に

に往かれた人をおもいつつナンマがブー

ナンマがブー

わづりの国にうまるとは

ただ信心に きわまりぬ

速入寂靜無為樂 必以信心為能入

(真宗勸行集 三三頁)

親鸞聖人の師、法然上人の言葉です。お浄土に生まれるには南無阿弥陀仏の名号をナンマンダブナマンダブと頂いていくだけなのです。

名号……一切衆生を助けんと、阿弥陀仏がわが名を呼べと名乗り出てくださいましたこと。

称名……ナンマンダブナマンダブと衆生が阿弥陀仏の名を呼ぶこと

名号に託された阿弥陀仏の思い、称名に表れる衆生の思い。信心とはこの名号と称名以外にはありません。全てを阿弥陀仏の願いが覆っているから他力の信心と云います。

わかりにくい話のように見えますが、実に分かりやすい

話なのです。身の回りにあふれている話なのです。

親子、特に母と子の話に譬えられます。お母ちゃんと

子供が母を呼ぶまで幾度母はおかあちゃんと呼びかけた

でしょうか。古今東西、母子の像や絵画が描き続けられて

るのは、母子の間にこそ最も穏やかで安らかな関係性が

あることを世界中の人が知っているからでしょう。なぜ

最も穏やかで安らかなのでしょうか。母と子があるだけ

母子は十分なのです。無条件の安心、大安心といえます。

疑いがないのです。信心とは疑いのないことなのです。

一安心と呼べるものはたくさんありますが、一安心は

一苦勞の始まりということ、身に沁みてわかっています。

一安心を語る信心も世の中にはたくさんあります。しかし

これで大丈夫だろうかという不安が常によぎります。また、

欲望でしかなくことを信心・信仰で覆ってしまうこともあ

ります。

浄土真宗という信心、深く心に蓄えてください。

ナンマンダブナマンダブ

いちれん たくしょう 一蓮托生

「俺とお前は一蓮托生・・・」

どこかで聞いたようなセリフです

が、さて、皆さんはどのような場面が浮かびましたか？強面の男が脅迫する場面、窮地に追い込まれた男女の場面・・・いかがでしょうか。

現代では、一蓮托生は道連れ・共犯・運命共同という意

味で使われます。善悪関係なく同じ運命を辿ると。ところが、本来はそのような意味ではなかったのです。

一蓮托生を分解してみると、

「一」の蓮・・・極楽浄土の蓮の花

「托」・・・抛り所

「生」・・・往生する

同じ極楽浄土に生まれることを抛り所として生きると、

希望に満ちた意味で、本来仏教では使

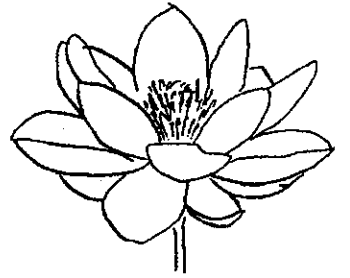
われていたのです。蓮はきれいな場所

では咲きません。濁った泥の中にこそ、

根を張り花を咲かせます。この濁った

迷いの中だからこそ、阿弥陀如来は

念仏の根を張られたのです。



日本シリーズ
オセ戦
見たかったなま
名住耳

こんなところに

仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

いっかつ 一喝

「かーっつ！」
日曜の朝の張
さんの声。

喝は、主に臨済宗の禅において、師匠

が弟子を叱咤する際に用いられます。

この喝には四種類あるそうです。

一、スパッと迷いを一刀両断するような喝

二、今にも獲物に飛びかかろうとする獅子が吼えるよ

うな喝

三、相手の力量を探る喝

四、これらの働きをしない喝（意識しない喝とでも申し

ましようか、禅は言葉では言い表せないのです、文字化す

ることが難しいのです）

では、曹洞宗はどうなのかといいますが、臨済宗ほど、喝

を入れることを重要視しません。抜き身を放つような喝で

はなく、鞆に納めたままで悟らせることに重心を置きます。

喝を入れるのにも様々です。これは、

アプローチ方法はいくらでもありとい

うことなのでしょう。近頃は、ひとつ何

かあれば、一斉攻撃の時代です。別の手

立てを考えてみませんか。



各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半〜七時、朝のお勤めをしています。主に正信偈を読みます。朝から声を出すことは気持ちがいいものです。

・草取り

十一月十三日(日) 午前八時〜九時
助太刀よろしく願いいたします。

・写経会

池上さんが講師です。いつでもどうぞ！
ノビノビとやっています。

壮年会 十六日 一八時〜
婦人会 十一日 一三時〜

・壮年会・婦人会主催の勉強会

三島さんが講師です。真宗の教えを知りたい方は是非！

壮年会 十一月二日十八時〜 十二月七
婦人会 休み

・尺八愛好会

十一月休み

・心耕発送者募集！

毎月皆様のお手元に届けられる心耕。この心耕は、有志のご門徒にお手伝いいただき発送をしています。この発送作業をお手伝いいただける方を募集します。

形態…三カ月に一度 主に月初めの平日
時間…一〇時〜一二時 特製ランチ付♪

・熊本地震災害義援金

皆様のおかげによりまして、73,720円(十一月下旬)の義援金が集まりました。御協力有難うございます。受付しています。

・メールマガジンのご案内

毎月の行事、公開講座、子供会、落語会のご案内や4コマ漫画を、メールマガジンで配信。登録は、左記のQRコードを用いるか、saikohji@saikohji.netまで、氏名を記入し送信してください。



・ポスティングお手伝い募集

度々開かれる、子供会・公開講座・落語会のチラシを近所へ配布しています。もし皆様の中で近所の五十軒だったら回れる、この町内は回れる。このお店にチラシを置かせておられるなどありましたら、連絡して下さい。年に数回です。

ご協力よろしく願いいたします。

・おみがき

報恩講(親鸞聖人のご法事)の前に、仏具を磨きます。年内最後のおみがきです。作業は難しくありません。一緒に本堂をきれいにしましょう。

日時 二十二日 十時〜十二時
*坊守特製ランチ付

・伝灯奉告法要に行ってきました！

去る十月五日、六日と京都へ団体参拝に行ってきました。全体一〇〇名ほどの参加者の中、西光寺からは一二名の参加。酒を飲み、酒を飲み、酒を飲み……。いえいえ、ちゃんとお参りさせていただきました。西本願寺では、新しい御門主ご一家のインタビューがあり、ほのぼのとした心休まる法要でした。琵琶湖で一泊大宴会、門徒喜び若は寝る。あくる日、湖東三山西明寺へ。親鸞聖人流罪の際に、叡山時代の仲間に挨拶に来られたそう。天台のお寺に鸞聖人の御木造あり。兄弟弟子とどのような会話がなされたのやら：八〇〇年前に思いを寄せる旅でした。



11月の法座案内

12日(土) 法座はお休みです。

* 築地本願寺へ参拝の為、西光寺での法座はお休みです

西光寺報恩講

日程

25日(金) 午後1時～3時 法要

26日(土) 午後1時～3時 法要

午後6時30分～7時30分 法要

27日(日) 午前10時～11時 法要

昼 御齋(おとし)

午後1時30分～3時30分 法要

午後3時30分～

打ち上げ：西光寺特製ピザ

講師：高津眞悟氏

(島根県大田市浄福寺)

報恩講って？

浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご法事です。

迷い、苦しみ、憂う者をすくいの手で包んだなら決して離さないと誓われた阿弥陀如来。その攝取不捨の慈悲の心を伝えて下さった親鸞聖人。

この報恩講は1年で最も大切な行事です。西光寺では3日間勤められます。お参りに条件、制限はありません。どれか一日でもお参りください。

西光寺のお齋

法事の後にいただく食事をお齋といいます。元々は寺院での僧侶の食事のことをお齋といたしました。さまざまないのちをいただいて我々は生活をしています。

いただきますのころを忘れぬよう西光寺では手作りのお齋を続けています。

お齋を手伝ってみたいという方も募集していますので、お寺にたずねてください。



住職多感

大相撲、地元九州、琴奨菊がんばれ。年の初めと終わり、優勝で飾れ。むりかな。

その九州でも関東でも日本国中の真宗寺院で報恩講が務められる季節となった。およそ七〇〇年続く親鸞聖人の法事である。

「信心の溝をさらえ」といわれる行事でもある。必ず参ってもらって自らがどういう教えを聞いているのかを確かめてほしい。西光寺でも最も大切な行事です。

経済といえばすぐにお金のことだと考えて、何でもかんでも膨れ上がれば上等と想っているが、北海道・夕張では収縮する経済(金銭)活動のもと、様々な施策を展開している。景気のいい話ではない。だが実態を見学に来る自治体も多いという。経済の収縮を予測しているのだ。GNPに代表さ

れる経済を金銭でしか測らない時代はもうすぐ破綻するのではないかという見解がある。経済はお金がすべてではない。

その予兆でもあるまいが、唯一黒字自治体の東京都で豊洲・オリンピックをめぐってみっともない事態が持ち上がっている。

豊洲は使用不可という極論が現実味をまし、オリンピックは金や名誉に狂った者どもが踊りまわるだけで、大会を担っていかうという者の一体感を全く欠いている。絵に描いた「もったいない」精神が「みっともない」現象にすり替わってしまっているのだ。どういいう「おもてなし」が出来るというのか。

台湾で、二〇二五年までの原発廃炉を決めたという。地震も台風もある国だ。

十二月の行事

・十二日(月)常例法座 午後二時より

・十八日(日)日曜法座 午後一時より

・二十五日(日)餅つき・びざ焼き

大忘年会

午前一十時より

池上まゐりの写経会 九日・二十一日

二箇まゐりの勉強会 七日・十二日

毎日の御晨朝(おあそび) 六時半から

発行

浄土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇一〇〇二四

千葉県市原市根田

七三三一一

TEL. 0436-22-7412

FAX. 0436-24-1652

HP <http://saikohji.net>

MAIL saikohji@hb.tp1.jp